

ボリビア・リベラルタにおける日本人移住者：史料の整理

大島正裕（立教大学ラテンアメリカ研究所）

キーワード： リベラルタ、ゴム産業、日本人移住者、日本人協会

Japanese immigrants in Riberalta, Bolivia: Analysis of historical documents

MASAHIRO OSHIMA (The Institute for Latin American Studies, Rikkyo University)

Keywords: Riberalta, Rubber Industry, Japanese Immigrants, Japanese Association

1. はじめに

ボリビア・リベラルタに集住してきた戦前の日本人については、1960年代後半から80年代には聞き取り調査など、その実態について多くの成果が見られ、1970年、移住編纂委員会による『日本人ボリヴィア移住史』が刊行され、続いて1999年には、ボリビアへの日本人集団移民100周年を記念した『日本人移住100周年誌 ボリビアに生きる』（以下、『100周年誌』）が刊行された。後者は、この時点で現存するほとんどの一次史料を活用している。但し、『100周年誌』の性格から、それら一次史料を十分に吟味、活用しているとは言い難く、これがリベラルタ（及び他のボリビア地域への移住者の）研究を進めるための次の課題となっている。

本発表では、研究を進めていく上で、今後特に重要と思われる近年見つかった「リベラルタ日本人協会議事録」の史料について確認していく。

2. リベラルタと日本人協会の歴史

ボリビアのベニ県リベラルタは、1882年までは処女林に覆われていた。しかしこの地域にあった野生のゴム林が新しい自動車産業に大いに必要であることが分かると、1880年以降、多数の民間企業がこの地に進出し、同地はゴム・ブームに沸いた。1885年7月、この地に店を構えていた商人クラウセン(Federico Bodo Claussen)は、同地が高い河岸にあることから、「Ribera Alta(高い岸边)」と名付け、その後、「リベラ・アルタ」が縮まり同地は「リベラルタ」と呼ばれるようになった。リベラルタは、ゴムの集積地として発展し、また、ゴム採取への報酬が英ポンド金貨で決

済されることもあったため、多くの労働者が一攫千金を夢見て同地にやってきた。1899年以降、ペルーに出稼ぎ労働者としてやってきていた日本人も同地の噂にひきよせられた集団のひとつだった。

リベラルタには、1911年には、約70名の日本人がいたと記録されているが、1914～15年には300名程度に増加し、1914年には日本人の中で多数派であった沖縄県人が早くも県人会を創設し、1915年にはリベラルタ日本人協会が創設されたとされる。1917～18年には500人から700人まで日本人の数は増加した。他方で、東南アジアのゴム産業の台頭で、アマゾンのゴム産業は斜陽に向かい、それに伴って日本人の職業もゴム採取業から農業、小売業などに多様化していった。

1920年代に入ると、リベラルタの日本人人口は減少に転じ、他都市や他国への流出が始まり、日本人協会は会存続のため組織の強化や地元社会との協調に力を注ぐが、やがて日本人社会内のある殺人事件を境に日本人協会は分裂し、苦難の歴史を迎えることになる。

3. リベラルタの日本人研究のための史料

ボリビアの戦前移民の研究は、新垣庸英の『日記』[大塚 1992; 小野 1970]、1910年代初頭に、農商務省からゴムの研究を委託され現地調査を行った堀内伝重の書き残した『聖母河畔の十六年』[堀内 1926]など幾つか有力な同時代史料がある。また、リベラルタには多くの日本人が集まったため、日本政府は、邦人保護のため同地の情報を収集する必要性が生じ、時に外交官を近隣

国から出張させ、このため有益な出張報告が後世に残された〔伊藤 1912; 竹中 1924; 野田 1931〕。

他方、ボリビア側の同時代史料として新聞資料も有益である。ロペスは、当時のリベラルタには非常に多くの新聞は刊行物が流通しており、文化的にも活況を呈したことを指摘している〔López 2006〕。この内、例えば日本人協会が購読していた「エル・コメルシオ (El Comercio)」紙には、1917~18年頃の日本人に関する情報が断片的に確認できる。

さらに史料として興味深いのが1910年代後半に創設された日本人協会の議事録資料である。従来知られていた議事録資料は、戦後のリベラルタ市の有力者であった具志寛長が議事録原本から転写した資料である。しかし、この「具志版議事録」は、これまで十分な史料批判が行われてこなかった。

こうした中で2020年にラパスの移住資料館より、リベラルタ日本人協会の議事録の写しが発見された(図1)。「具志版議事録」と内容が重複するため、議事録原本の複写(コピー)版の可能性が高い。同議事録は1921年~29年までをカバーしており、多難な20年代の状況が分かる原本の複写版はリベラルタの日本人会をより正確に知るため貴重な資料となる。

本発表では、リベラルタの日本人の歴史を概観した後、主に本史料について紹介した。

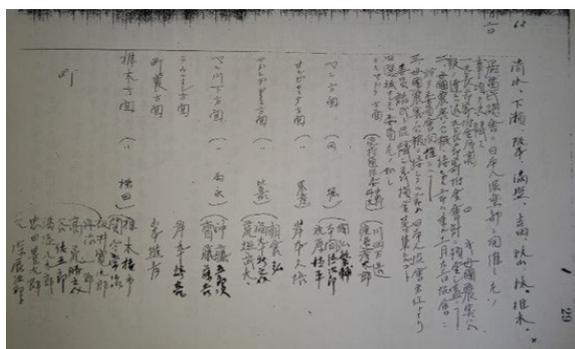


図1 リベラルタ日本人協会議事録(写)

【主要参考文献】

López Beltrán, Clara, 2006, Un imaginado banqueta comercial: una historia de Riberalta (Bolivia)

1890-1920. En *Estado, región y poder local en América Latina, siglo XIX-XX*, Pilar Garcia (ed.), pp.305-327, Ube/TEIAA, Barcelona.

伊藤敬一、1912、「秘露国「マドレ、デ、ディオス」河附近ニ於ケル状況一斑」、外務省通商局、『移民調査報告』、第9巻、pp.307-313。

大塚真琴、1992、「新垣庸英とボリヴィア逃亡移民」、『移住研究』、第29号、pp.89-143。

小野基雄、1970、「アンデスを越えた人々：ボリビア日本人の先駆者」、『移住研究』、第6号、pp.1-18。

川路賢一郎、1982、「アマゾン上流に日本人を訪ねて：ボリヴィア国ベニ州、パンド州紀行」、『移住研究』、第19号、pp.68-81。

具志寛長、「在リベラルタ市日本人協会の歴史」(佐藤信壽氏転写)。

竹中来、1924、「移民地事情 第六巻 暮利比重視察報告」外務省通商局(以下に所収 外務省通商局編 1999『移民地事情 第4巻』富士出版)。

日本人ボリヴィア移住史編纂委員会、1970、『日本人ボリヴィア移住史』。

野田良治、1931、『南米の核心に奮闘する同胞を訪ねて』、博文館。

堀内伝重、1926、『聖母河畔の十六年』、堀内良平発行。

ボリビア日系協会連合会／ボリビア日本人移住100周年移住史編纂委員会、2000、『日本人移住100周年 ボリビアに生きる』、リベラル。日本人協会議事録(ボリビア日本人移住史料館蔵)。